

平成 27 年度事業報告

当年度は、26 年度後半の看護職員の離職による病棟閉鎖の影響により経営面において大変厳しい 1 年となりました。

年度始めより看護部の夜勤体制の人員不足の理由から 2 病棟にて稼働しておりました療養病棟一病棟を閉鎖し、その後欠員の補充の為に雇用条件の見直しを図り、同時に病棟の再編成を検討し 9 月より従来の 6 病棟 207 床の体制から、5 病棟（一般病棟 156 床、療養病棟 46 床）202 床の新たな体制に変更をました。

しかし、27 年度の決算は残念ながら 2 億 8600 万の赤字決算となりました。要因としましては経常収益が 28 億 1100 万となり前年比では 1 億 500 万の増加、一方、費用は 30 億 6400 万と 2 億 1300 万の増加計上となりました、更に雇用条件の見直しを図った関係での経常外費用も発生し経費が大幅に増加することになり、収支のバランスが大きく崩れた結果となりました。

収益増の内容は保険診療収益が 8400 万の増収となっておりますが、こちらは新入院患者数の増加と平均在院日数の短期化によるものとなりました。

経費については医局、看護部をはじめとした人員体制整備を図った関係で人件費が 1 億 4700 万の増加、経常外費用とした退職給付費用が 2900 万となり、薬品材料費について新入院患者の増加に伴い 4100 万の増加となり経費増の要因となりました。

患者数で申し上げますと 27 年度の 1 日当たり平均入院患者数は 154.7 人となっており前年度の 155.5 人から 0.8 人のマイナスとなっており減少となりました。内訳では一般病棟平均 113.7 人、昨年は 97.8 人で 15.9 人の増加、療養病棟は 41.0 人、昨年は 57.7 人で平均 16.7 人の減となっており、全体では 154.8 人で昨年の 155.5 より 0.7 人の減少となりました。

本来、医師の体制を強化し入院患者数増を図らねばならない環境でありましたが、年内の半分が病棟閉鎖されたことと、再稼働以降もインフルエンザの流行等の影響によりフル稼働が困難な状況が続いたことでこのような結果となりました。

平成 28 年度は、稼働病床の有効利用に全力を注ぎ、27 年度に引き続き新入院患者の受入を強化し、在院日数の短期化を図り収益増の体制整備に努めたいと考えております。尚、近隣医療機関との連携を図り地域の医療ニーズに応え、且つ永続的に安定した経営が図れるよう取り組んでいきます。

■ 設備・機器導入

- 設備 -

- 加圧給水ポンプの入替え（施設管理） : 5月完了
- 厨房床塗装工事（栄養科） : 5月完了
- 防水改修工事（施設管理） : 5月完了

- 購入機器等 -

- トレッドミル運動負荷試験装置（臨床検査科） : 4月完了
- 内視鏡セット（外来） : 7月完了 リース購入
- 血ガス分析装置（臨床検査科） : 8月完了
- 内服1包化監査システム（薬剤科） : 10月完了

■ 人 事

- 入職者 -

医師 - 2名
看護師 - 2名、准看護師 - 1名
看護助手 - 1名
看護学生 - 1名
管理栄養士 - 1名
理学療法士 - 1名・言語聴覚士 - 2名
事務 - 1名

年度内産休取得者 3名（看護師（准） - 2名、他 - 1名）

年度内産休復帰者 12名（医師 - 1名、看護師（准） - 7名、他 - 4名）

- 退職者 -

定 年	: 病院	- 4名
	: 訪問看護	- 0名
中途退職	: 病院	- 17名
	: 訪問看護	- 0名